

令和元年6月7日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03313

研究課題名(和文) ラテンアメリカ発展停滞のパズル

研究課題名(英文) Latin America's Development Puzzle

研究代表者

濱口 伸明 (HAMAGUCHI, NOBUAKI)

神戸大学・経済経営研究所・教授

研究者番号：70379460

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：ラテンアメリカ諸国経済のパネルデータを分析し、グローバルバリューチェーンへの参入、天然資源輸出の拡大はともにそれ自体が所得水準を上昇させるが所得格差を拡大する効果を通じて所得水準を押し下げること、しかし前者は教育水準の向上によって、後者は社会支出の拡大によって経済発展に与えるマイナスの影響を緩和できることが分かった。メキシコの地域レベルの政治社会データベースを構築し、従来国レベルのデータでは確認されていなかった条件付き現金給付政策が投票行動を与党に有利にする影響が確認された。ラテンアメリカにおけるオープンリージョナリズムの推進が質の高いグローバル化のために必要であることを見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は豊かな天然資源を持ち、北米市場に近いという自然の好条件を持つラテンアメリカにおいてなぜ経済発展が停滞するのかという問題の解答を求めた。グローバル化は資源配分と所得配分に影響を及ぼすが、それによって惹起される階級間の政治的対立が期待される「よい均衡」に発展せず、悪い均衡に陥ることがわかった。このことから近年ラテンアメリカにおいて起こっているポピュリズム、左傾化・保守化の激しい変動といった大きな政治変動とそれに伴い一貫性を欠く経済政策が説明される。また政治的資源収奪競争が汚職を引き起こし、経済的資源の浪費が起りやすいこともラテンアメリカの問題点である。

研究成果の概要(英文)：We found that the globalization promotes growth by trade expansion but hampers it at the same time through the enlargement of income inequality. The latter effect can be mitigated by social policies targeting poverty reduction and basic education. Social policies may have side-effects as we found from the analysis of the Mexican local level socio-political data that the conditional cash transfer had a "pork-barrel" effect. Latin America can achieve "higher quality" globalization (with higher positive effects and less negative ones) through "open-regionalism".

研究分野：経済学

キーワード：グローバル化 所得分配 周辺性 構造問題

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

元来資源供給国であるラテンアメリカ・カリブ諸国(LACs)は、1960年代から1970年代にかけて軍事政権や一党独裁の権威主義体制下で輸入代替工業化戦略に基づく工業化を進めたが、1980年代は政治的に極めて不安定な民主主義体制への移行のなかで対外債務問題・ハイパーインフレの深刻な経済危機に陥った「失われた10年」となった。「ワシントン・コンセンサス」を受け入れて経済自由化を推進した「改革の10年」の90年代は経済不振が続いた。しかし2003年～2013年にはLACsが輸出する一次産品の価格上昇と中国市場の拡大の恩恵を受けて経済成長と貧困軽減・所得分配平等化が進む「黄金の10年」を経験した。2000年代後半以降、マクロ経済と政治的民主主義の安定を達成してきたLACsであるが、「新常态」中国の経済成長減速と不安定な国際金融情勢の下、その政治経済発展が発展停滞の局面を迎えていた。LACsが政治的にも経済的にも脆弱さを脱却できない理由を理解する必要があった。

## 2. 研究の目的

本研究を通じて、ラテンアメリカ社会が政治的にも経済的にも脆弱で発展が停滞するメカニズムを解明し、この地域に対する理解を促進する。そのようなメカニズムを規定する要因として周辺性と格差の存在を指摘し、それらをラテンアメリカ地域の構造的問題ととらえつつも、そのような問題のとらえ方は広く一般性のある概念であることを明らかにする。

## 3. 研究の方法

脆弱性を克服できないLACsの政治経済変動を理解するための分析枠組に、この地域の固有性として、国際的な意味の周辺性と国内の社会格差の2つの問題を取り入れた。このようなアプローチは構造主義と呼ばれ国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)で1950年代から論じられてきたが、本研究では従来歴史的先行条件とされてきた周辺性と格差の間に内生性があり、市場を通じた配分と階層間の政治的対立と協調を通じて、この二つが相互に強め合う関係があることを考慮した。このため、本研究は政治学と経済学の共同研究により行われた。

## 4. 研究成果

### グローバル化と経済成長の関係

ラテンアメリカ諸国経済のパネルデータを分析し、グローバルバリューチェーンへの参入、天然資源輸出の拡大はともにそれ自体が所得水準を上昇させるが所得格差を拡大する効果を通じて所得水準を押し下げること、しかし前者は教育水準の向上によって、後者は社会支出の拡大によって経済発展に与えるマイナスの影響を緩和できることが分かった。

### 社会政策と政治

メキシコの地域レベルの政治社会データベースを構築し、条件付き現金給付政策が投票行動を与党に有利にする影響が確認された。従来全国レベルのデータによる分析では、投票鼓動に与える影響はないとされており、このことがメキシコの条件付き現金給付政策が政治的介入を排除する制度設計の下で行われているとする見方の根拠となってきたが、今回の研究結果はそうした見方に疑問を呈すものとなり、地方政治においては社会政策が有権者の投票行動を与党に有利なように誘導するPork-barrelと呼ばれる利益誘導に用いられている可能性を示唆するものとなった。

### オープンリージョナリズムの重要性

ラテンアメリカではグローバル化戦略として以前から地域統合が進められてきた。特に南米

地域におけるメルコスルがよく知られている。しかしこれらは保護主義的な性格と対先進国存在感を示す政治的な意味合いを強く持っており、閉鎖的でもある。そのため域内の自由貿易は低調で、サプライチェーンも発達していない。また一部の参加国に貿易の利益が集中している。これに対してオープンリージョナリズムを掲げる太平洋同盟は、貿易の歪みがなく、参加国に便益が広く分配されている。成長が停滞するメルコスルと貿易を拡大する太平洋同盟の間で経済成長パフォーマンスの差が明確になっている。ラテンアメリカはオープンリージョナリズムを通じて質の高いグローバル化を達成できると考えられる。

#### 政党政治の弱さがもたらすポピュリズム

ラテンアメリカにおいては 1980 年代のポピュリズムの経済政策失敗が引き起こした混乱から脱するために 1990 年代に新自由主義改革が進められたが、2000 年代に左派ポピュリズムの台頭が見られた。しかし、左派政権は資源経済の行き詰まりと汚職の表面化によって支持を失い、近年では左派リベラルを否定する保守政権が各国で成立している。このように政治体制が大きく変わる選択をするのは、ラテンアメリカ各国において政党基盤が極めて弱体で多数の政党に分裂した立法府を形成していることとかかわっており、有権者の多くが支持政党を持たず、時々 이슈により動員を図るポピュリスト的言説の下に糾合しやすいことによる。

#### 国際シンポジウムの開催

本研究会の研究成果に基づいて、2017 年 1 月 7 日 (East Asian Network for Latin America Studies との共催)、2018 年 3 月 19 日、2019 年 3 月 8 日 (早稲田大学ラテンアメリカ研究所との共催) に計 3 回、国際ワークショップ (シンポジウム) を開催し、ブラジル、アルゼンチン、メキシコから研究者を招聘し、中国、韓国、台湾からも出席者があり、国際共同研究を行った

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 4 件)

浜口伸明・河合沙織, ブラジル有権者の右急旋回: 市データを用いた 2018 年大統領選挙の分析, 国民経済雑誌, 2019 年, 第 219 号 (6 月) 掲載予定

浜口伸明, NAFTA 再交渉の経緯と日本企業の直接投資への影響, 経済経営研究 (年報), 査読無し, 第 68 号, 2019, pp. 1-16

浜口伸明, 日本の国際化戦略とラテンアメリカ, 経済経営研究 (年報), 査読無し, 第 67 号, 2018, pp. 1-18

村上善道・浜口伸明, ラテンアメリカ中所得国経済の発展と停滞における構造問題, ラテン・アメリカ論集, 査読有, 51 号, 2017, pp. 33-53

### 〔学会発表〕(計 10 件)

HAMAGUCHI, Nobuaki, Voters of Bolsonaro: Some Evidences from Municipal Data. International Symposium: Political and Economic Factors Shaping Latin America in the Next Decade-Argentina, Brazil, Mexico and Comparison with East Asia-, Waseda University, March 8, 2019

TAKAHASHI, Yuriko, Democracy, Poverty, and Vote-Buying in Mexico, International Symposium: Political and Economic Factors Shaping Latin America in the Next Decade-Argentina, Brazil, Mexico and Comparison with East Asia-, Waseda University, March 8, 2019.

TAKAHASHI, Yuriko, Determinants of Vote-Buying in Mexico, 1988-2017, The 35th Annual Meeting of the Society of Political Methodology (The Society of Political Methodology) 2018 年 10 月 18 日

TAKAHASHI, Yuriko, The Middle-Democracy Trap in Latin America? A Tentative Analysis, The 3rd EANLAS (East Asian Network of Latin American Studies) Seminar (Latin American Studies Association of Korea), 2018 年 6 月 9 日

TAKAHASHI, Yuriko, De-consolidating Democracy in Latin America, Latin America Seminar on Globalization and Democracy in Latin America: Recent Trends and Future Challenges, Kobe University, 2018 年 3 月 19 日

MURAKAMI, Yoshimichi, Globalization and Inequality in Latin America: What We Know So Far and What We Should Study Further? Latin America Seminar on Globalization and Democracy in Latin

America: Recent Trends and Future Challenges, Kobe University, 2018年3月19日

TAKAHASHI, Yuriko, Clientelismo, Pobreza y la Reforma de Accountability en México en Perspectiva Comparada, メキシコ政治学会研究大会(Asociación Mexicana de Ciencia Política), 2017年9月14日

TAKAHASHI, Yuriko, Democracy, Accountability, and Clientelism in Mexico, 1988-2012., The 75th Annual Conference of the Midwest Political Science Association, 2017年4月8日

MURAKAMI, Yoshimichi, Peripherality, Inequality and Economic Development in Latin American countries, International Symposium, Comparing Policy Agendas in Emerging Economies: Growth Strategy, Re-distribution and Social Security System in East Asia, Latin America and East Europe-Russia, Kyoto University, 2017年3月21日

高橋百合子, Clientelism beyond Borders? The Reform of Extending Voting Rights Abroad in Mexico. 2016年度日本政治学会研究大会報告(立命館大学)2016年10月1日

〔図書〕(計3件)

濱口伸明編著, 国際書院, ラテンアメリカ所得格差論: 歴史的起源・グローバル化・社会政策, 2018, 257

HAMAGUCHI, Nobuaki 他, Springer, Cutting the Distance: Recent Engagement of China, Japan, and Korea in Latin America, 2018, 80

村上勇介編著, 国際書院, 「ポピュリズム」の政治学: 深まる政治社会の亀裂と権威主義化, 2018, 297

〔その他〕(計9件)

TAKAHASHI, Yuriko, Poverty, Clientelism and Democratic Accountability in Mexico. WINPEC Working Paper Series No.E16202017

TAKAHASHI, Yuriko, Clientelism beyond Borders? The Political-Electoral Reform of Extending Voting Rights Abroad in Mexico. WINPEC Working Paper Series No.E1618.2017年

KUWAYAMA, Mikio, TPP11 (CPTPP): Its Implications for Japan-Latin America Trade Relations in Times of Uncertainty, RIEB Discussion Paper DP2019-05, 2019年3月

Yoshimichi MURAKAMI, Globalization and Income Inequality in Latin America: A Review of Theoretical Developments and Recent Evidence, RIEB Discussion Paper DP2018-16, 2018年5月

Yoshimichi MURAKAMI and Nobuaki HAMAGUCHI, Peripherality, Income Inequality, and Economic Development in Latin American Countries, RIEB Discussion Paper DP2017-08, 2017年3月

桑山幹夫, ラテンアメリカで地域統合の新しい潮流として蘇る「開かれた地域主義」, RIEB Discussion Paper DP2018-J07, 2018年7月

桑山幹夫, ラテンアメリカ経済は何故長期にわたり停滞するのか?: 新構造主義学派の見解を軸として, RIEB Discussion Paper DP2018-J02, 2018年2月

桑山幹夫, ラテンアメリカの国際経済への参入の「質」を考える: 新構造主義派の見地から, RIEB Discussion Paper DP2017-J11, 2017年8月

浜口伸明, 中南米経済 新政権の課題: ブラジル国会との関係焦点, 日本経済新聞・経済教室, 2018年12月27日

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：村上勇介

ローマ字氏名： MURAKAMI, Yusuke

所属研究機関名：京都大学

部局名：東南アジア地域研究研究所

職名：教授

研究者番号（8桁）：70290921

研究分担者氏名：高橋百合子

ローマ字氏名： TAKAHASHI, Yuriko

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：政治経済学術院

職名：准教授

研究者番号（8桁）：30432553

研究分担者氏名：村上善道

ローマ字氏名： MURAKAMI, Yoshimichi

所属研究機関名：神戸大学

部局名：経済経営研究所

職名：助教

研究者番号（8桁）：50709772

研究分担者氏名：桑山幹夫

ローマ字氏名： KUWAYAMA, Mikio

所属研究機関名：神戸大学

部局名：経済経営研究所

職名：リサーチフェロー

研究者番号（8桁）：80726018

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。